

鈴木基夫
自由クラブ

PHR/EHRを活用した医療改革

問 **0次医療（生活環境）、PHR（個人健康管理）、プライマリーケア（早期介入）、EHR（医療連携）、急性期医療の出入口といった階層について。**

答 0次医療の段階では、市民自らが生活改善などの健康づくりに取り組むだけでなく、PHRを活用し自分で管理する健康データの変化にいち早く気づくことができ、利用者とサービス提供者の双方向コミュニケーションから早期介入につなげることが重要と考える。市民が医療へアクセスする動機づけとしての役割に加え、かかりつけ医にPHRの情報を提供することで、日常的な健康相談や診察を効果的に担ってもらえると考える。病状等から専門医への早期紹介が必要な時や療養生活の中では、EHRを活用した医療介護連携の支援につなげることが重要と考える。介護面でも、食事など日々の活動や認知機能の状況をPHRで市民が主体的に測定・記録したデータに基づき、早期の介護相談やよりよい自立支援につなげることができると考える。

0次医療から急性期医療までを一連の流れとして、地域医療・予防行政の全体構想としていくことが大切であり、データを途切れなく連携できる体制が重要と考える。





尾崎広道
自由クラブ

西浦学園公民館棟2階の体育館建築設備について

問 **体育館の空調の仕組みを伺う。**

答 床下に冷温風を送り、床面からの輻射熱と床吹き出し口からの冷温風で空調を行い人の活動区域を効率的に空調する仕組みである。

問 **完成式典の時に冷房の効きが非常に悪かったが現在はどうか。**

答 室外機の排熱を適切に外へ導くよう改善した結果、想定する数値を満たし、夏休み中の部活動にも支障がないと確認した。

問 **体育館舞台上の照明が暗いという指摘への対応について伺う。**

答 照明器具の出力を最大にし、機器の配置等を変える対応をした。

電位治療器ヘルストロンについて

問 **市内の公共施設における設置状況を伺う。**

答 現在は寿楽荘、勤労福祉会館、形原公民館に設置されている。

問 **今後の予定を伺う。**

答 現在はレンタル契約で公共施設に設置しているが、令和8年度中の契約終了をもって全てのヘルストロンを撤去予定である。

がまごおり「みらいキャンバス」について

問 **新ホールでは有名歌手を呼べるのか。**

答 800席程度のホールを予定している。有名歌手などの民間興行だけで採算を確保することが難しい公演があるのは事実である。



ヘルストロン



八田寿人
自民党市議団
・無所属の会

学校等の火災時の避難経路について

問 **過去3年間の救助袋を使用した訓練実績を伺う。**

答 設置5校中2校で実施している。1校では児童が消防士の指導を受けながら実施し、新しく救助袋を設置したもう1校では、教職員が設置業者から使用方法等の説明を受けている。

問 **主階段が使えない場合の「第2の逃げ道（プランB）」が図面上マニュアル化されているか伺う。**

答 図面上で「プランB」としてマニュアル化している学校は現時点ではほとんどない。避難の安全性を高めるため、複数の避難経路の確保を今後検討していく。

問 **低学年や特別支援学級の児童への安全対策を伺う。**

答 救助袋は補完的な避難手段であり、階段等での避難を優先している。実際の避難の際は、教職員が児童の状況に応じて適切な支援や介助を実施し、避難支援を行うこととしている。

問 **高齢者施設や保育園など民間施設への避難指導を伺う。**

答 防火管理者を中心に消防訓練を実施するよう指導している。また、立入検査の際には避難経路の障害物や非常用扉の開閉状況を重点的に確認し、不備があれば早急な改善を指導している。



蒲郡市消防本部